

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

194

(表)、同国の特色ある発展ビジョンがうかがえる。また、東海岸の占めており、東海岸の道計画などのインフラ整備をはじめ、デジタル通信、環境エネルギーなど協力関係が深化している。もともと、産業基盤確立と外資導入を進めた90年代半ばから、今年3月に両国政府が筑波大学マレーシア分校設置に向け覚書を交わすなどの動きも見られる。

国際環境変化

マレーシアの貿易相手国は中国がトップを占めており、東海岸の道計画などのインフラ整備をはじめ、デジタル通信、環境エネルギーなど協力関係が深化している。もともと、産業基盤確立と外資導入を進めた90年代半ばから、今年3月に両国政府が筑波大学マレーシア分校設置に向け覚書を交わすなどの動きも見られる。

良好な関係

マレーシアと日本は、マハティール元首が推進したルックイースト(東方)政策が2022年に40周年を迎え、良好な関係が継続している。しかし、当時の労働集約型産業、大量工業生産に適した熟練人材育成という時代が終わり、今やマレーシアは経済規模が約13倍に成長し、高所得国入りも目前となっている。これからの新時代を見据え、科学技術・イノベーション分野でも新しい二国間連携が求められている。

また、マレーシアは、ペナン島(東洋のシリコンバレー)など協力関係が深化している。もともと、産業基盤確立と外資導入を進めた90年代半ばから、今年3月に両国政府が筑波大学マレーシア分校設置に向け覚書を交わすなどの動きも見られる。

一方、米国も22年に族・多宗教を包摂する多様性の国でもある。マレーシアはイスラム国家であるが、多民族・多宗教を包摂する多様性の国でもある。

マレーシアと新二国間連携

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 特任フェロー(海外動向ユニット) 宮崎 芳徳

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。米国スタンフォード大学PhD取得。工業技術院、産業技術総合研究所で、地球科学、エネルギー、科学外交などに従事。タイ国のNSTDA(科学技術開発庁)、TISTR(科学技術研究所)を経て、20年より現職。タイ在住。

同国は、「国家科学技術イノベーション政



マレーシアが重点化する社会経済分野と主な重要テーマ	
社会経済分野	主な重要テーマ
(1) エネルギー	分散型再生可能エネルギー、エネルギー貯蔵システム、マイクログリッド
(2) ビジネスと金融サービス	イスラム金融におけるフィンテック、デジタル化・自動サービス
(3) 文化、芸術、観光	創造的コンテンツ・遺産、高価値ツーリズム
(4) 医療とヘルスケア	デジタルヘルス、精密医療、開発途上国向けの臨床試験ハブ
(5) スマートテクノロジー(次世代工学・製造)	先端材料、次世代スマート工場、スマートデバイス製造・技術開発
(6) スマートシティと交通機関	都市型インフラ、都市と地方を結ぶスマートシステム、人間中心のデザインと分析
(7) 水と食料	高級ハラール食品、地方の優良食品、水資源管理
(8) 農業と林業	高価値水産物、高級熱帯フルーツ、地方農業支援、サステナブル林業産物のスマート供給システム管理
(9) 教育	パーソナライズされた体験学習、マイクロ資格、グローバルオンライン学習
(10) 環境と生物多様性	生物多様性、廃棄物からの革新的エコ製品

10-10MySTIE (Malaysian Science, Technology, Innovation and Economy) Framework (10-10マレーシア科学 技術 イノベーション 経済フレームワーク 2020年)を基に作成 <https://www.akademisains.gov.my/10-10-mystie/>

国連の持続可能な開発目標(SDGs)など、こうした有益と思われる。 (金曜日に掲載)